

後援会事業実施報告書

- ・申請教員名 蓮井誠一郎
- ・事業No. 1-50
- ・大洗町での巡検： 2024/11/27 12:30～17:00 実施
- ・活動内容：

ゼミ生 12 名を伴い、水戸駅に集合してあえて鹿島臨海鉄道にて大洗駅まで電車に向かい、途中の景色も見てもらいました。そこから町内を大洗駅から海沿い、神社、商店街、駅の順に徒歩で見学しました。途中で教員がゼミ生の発表テーマに関連した部分についての解説を行いながら歩くスタイルで巡検を行いました。

駅から海沿い：新しくできた道路沿いに歩き、都市計画と新しい市街地作りと防災について解説しました。海沿いのサンビーチ通りでは、茨城の港湾開発、および大洗にあるエネルギー関連施設について解説しました。エネルギー関連については知らない学生もありました。歴史的には漁業を主産業にしてきた町ですが、新たな産業導入により平成の大合併を乗り切った町として位置づけました。海沿いは東日本大震災での津波被害を受けており、その対応策としていくつかの防潮堤を見学し、どの場所からどこまで津波が侵入したかを論じながら、現状の対策と限界を解説しました。

神社：磯前神社では、その歴史を確認しつつ、漁村には必ず高台に海の安全祈願をする神社があること、地域の信仰と文化とのつながりについても解説しました。他方で、以前の参拝客などを相手にする観光拠点だったこの場所が衰退し、それでも水族館や自然環境など地域資源の活用により一定の地位を保っていることを指摘し、観光資源の大洗での意味を考えてもらいました。

商店街：人気アニメの聖地として描かれたことから、衰退から行きを吹き返した成功例としての大洗町商店街ですが、巡検の日はある祭の後でもあり、人通りはあまりありませんでした。ある意味の日常を観ることができましたが、ガルパンに続くコンテンツをどう作っていくのか、それとも観光公害ともいわれる状況から花火大会も有料化していることもふまえ、小さな共同体ゆえの観光と地域住民生活の両立について考えてもらいました。とくに、アニメブームに乗って商売を作りかえていない店の多いことを指摘し、ブームだけでは一過性で地域課題の解決には不十分であることを話し合いました。

以上



津波も経験した大洗海岸の様子



磯前神社の急階段をのぼる



夕暮れの商店街を歩く



帰り際の集合写真